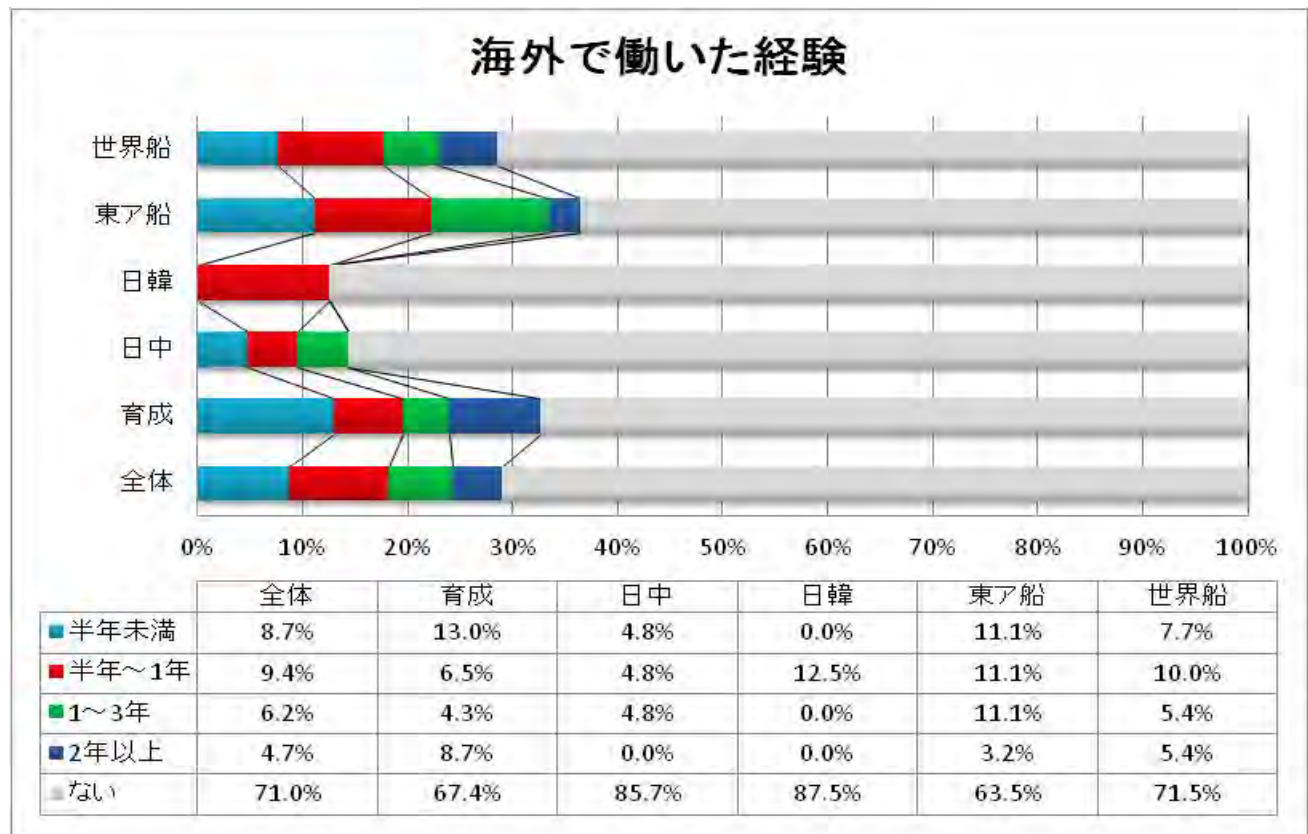


第4章 海外との関わりや国内外のネットワーク

質問10: これまでに海外で働いた経験はありますか。ある場合、期間はどのくらいですか。

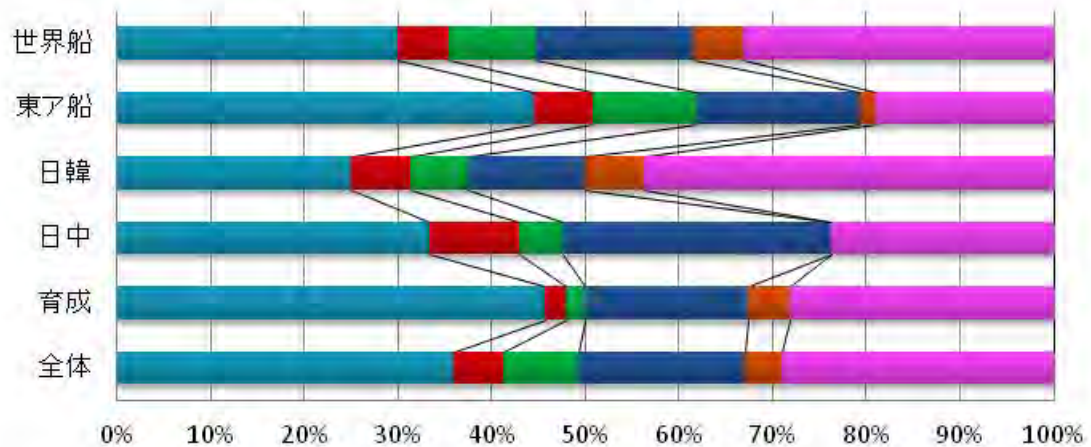
全体の約3割が何らかの海外勤務経験を持ち、全体の約2割については海外勤務期間が半年以上と比較的長い。事業ごとの比較では、「東南アジア青年の船事業」「国際青年育成交流事業」「世界青年の船事業」の順に海外勤務経験者が多い。



質問11: 仕事等で、外国の方や外国の企業等とやり取りしたり、外国に関する知識が求められることはありますか。ある場合、頻度はどのくらいですか。

全体の約 7 割が何らかの形で仕事等において外国との関わりを持っている。最も頻度の高い「日常的にある」とした者は 35.9%であり、国内においても多くの者に外国とのやり取りや外国に関する知識が求められていることがわかる。

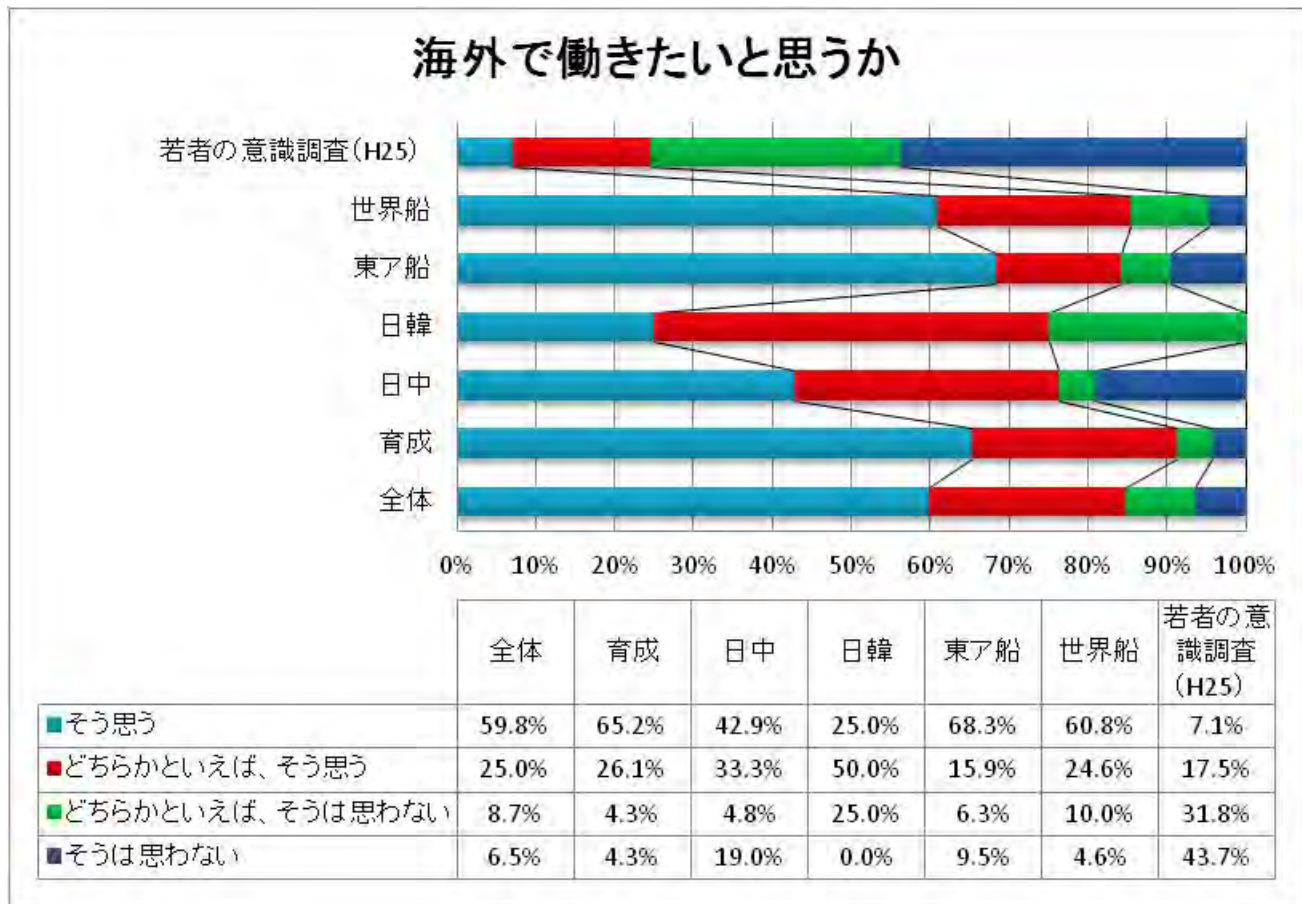
外国の方や外国の企業とのやり取り



	全体	育成	日中	日韓	東ア船	世界船
■ 日常的にある	35.9%	45.7%	33.3%	25.0%	44.4%	30.0%
■ 週に1回程度ある	5.4%	2.2%	9.5%	6.3%	6.3%	5.4%
■ 月に1~3回程度ある	8.0%	2.2%	4.8%	6.3%	11.1%	9.2%
■ 年に数回程度ある	17.8%	17.4%	28.6%	12.5%	17.5%	16.9%
■ 年に1回以下ある	4.0%	4.3%	0.0%	6.3%	1.6%	5.4%
■ 特にない	29.0%	28.3%	23.8%	43.8%	19.0%	33.1%

質問12: 海外で働きたいと考えますか。

「若者の意識調査」の回答(「そう思う」7.1%、「どちらかといえば、そう思う」17.5%)に比べ、内閣府事業既参加青年は非常に高い割合で海外勤務志向を示している(「そう思う」59.8%、「どちらかといえば、そう思う」25.0%)。



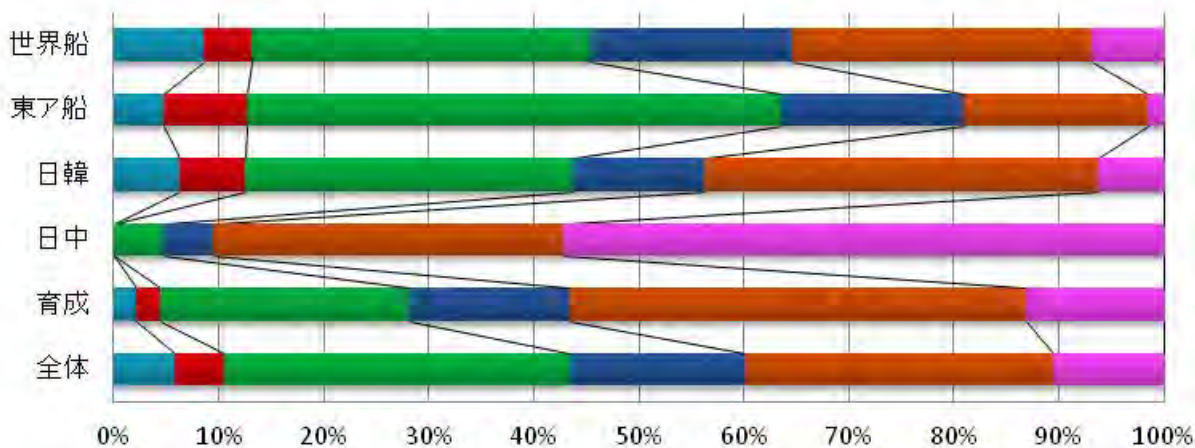
【厚生労働省「少子高齢社会等調査検討事業報告書(若者の意識調査編)」(平成 25 年 3 月)設問 29 との比較】

質問13: 内閣府事業で出会った外国の方(外国参加青年・ホームステイのホストファミリー・派遣国での訪問先の方等)のうち、年に1回以上、個人的なやり取りをしている方は、何人程度ですか。面会・電話・電子メール・SNS等、連絡の手段は問いません。

全体の9割が何らかの形で事業で出会った外国人とのつながりを維持している。また、10人以上とのつながりを維持している者が4割以上を占めている。

事業ごとにみると、船中で100人以上の外国青年と共同生活をする「世界青年の船」、約300人の外国青年と共同生活をする「東南アジア青年の船」について、比較的多くの外国人とのつながりを維持している傾向がみられる。

内閣府事業で出会った外国の方とのやり取り

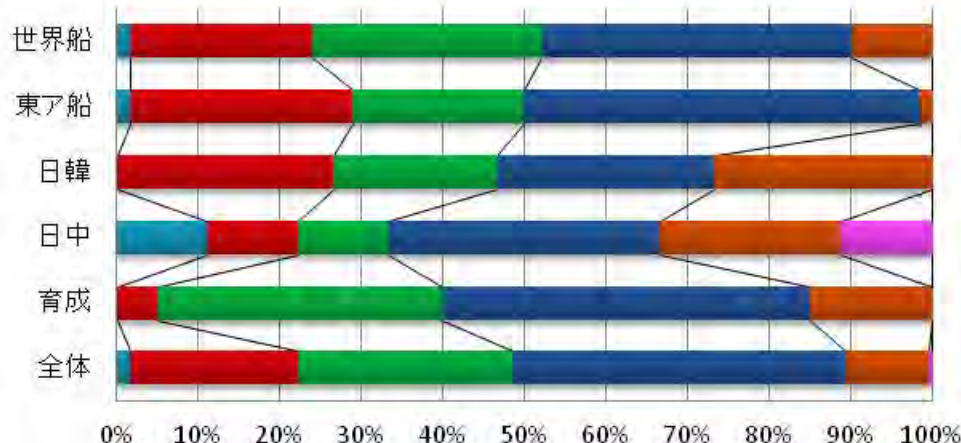


	全体	育成	日中	日韓	東ア船	世界船
■100人以上	5.8%	2.2%	0.0%	6.3%	4.8%	8.5%
■50~99人	4.7%	2.2%	0.0%	6.3%	7.9%	4.6%
■10~49人	33.0%	23.9%	4.8%	31.3%	50.8%	32.3%
■5~9人	16.7%	15.2%	4.8%	12.5%	17.5%	19.2%
■1~4人	29.3%	43.5%	33.3%	37.5%	17.5%	28.5%
■0人	10.5%	13.0%	57.1%	6.3%	1.6%	6.9%

質問14: 質問13で1人以上の方とやり取りをしていると答えた方(ア~オを選択した方)にお伺いします。最も高い頻度で連絡を取っている方との交流の程度はどのようなものですか。

連絡の頻度は「年に数回程度」とする者の割合が全体の40.9%と最も高い。続いて「月に1回程度」「日常的」の順となっており、「日常的」に連絡を取っている者も約2割存在する。どちらかといえば、船事業参加者のほうが航空機事業参加者より高い頻度で連絡を取っている傾向がみられる。

最も高い頻度で連絡を取っている外国の方との交流

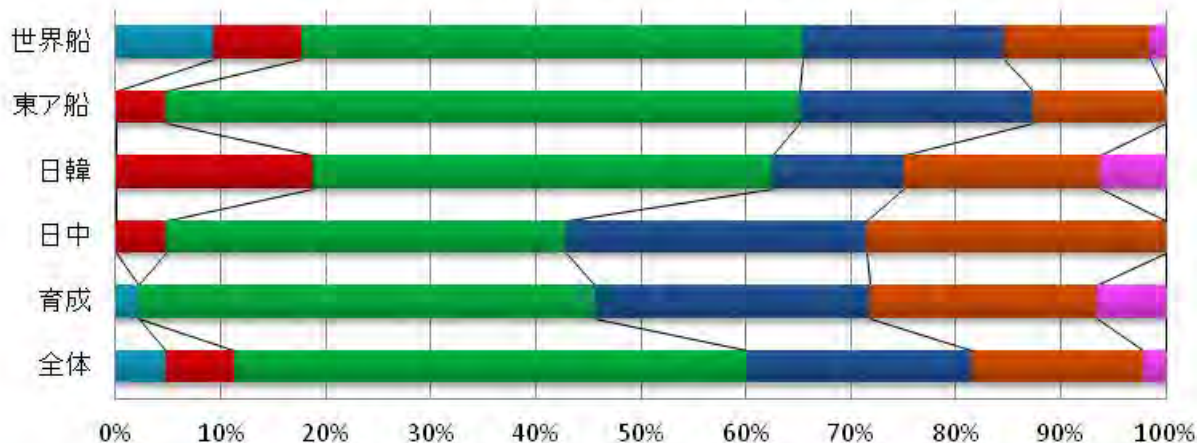


	全体	育成	日中	日韓	東ア船	世界船
一緒に活動している仲間である	1.6%	0.0%	11.1%	0.0%	1.6%	1.7%
日常的に連絡を取っている	20.6%	5.0%	11.1%	26.7%	27.4%	22.3%
月に1回程度連絡を取っている	26.3%	35.0%	11.1%	20.0%	21.0%	28.1%
年に数回程度連絡を取っている	40.9%	45.0%	33.3%	26.7%	48.4%	38.0%
年に1回程度連絡を取っている	10.1%	15.0%	22.2%	26.7%	1.6%	9.9%
無回答	0.4%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%

質問15: 内閣府事業で出会った日本人(団長・日本参加青年・既参加青年等)のうち、年に1回以上、個人的なやり取りをしている方は、何人程度ですか。面会・電話・電子メール・SNS等、連絡の手段は問いません。

ほとんどの者(97.8%)が何らかの形で事業で出会った日本人とのつながりを維持している。全体のうち「10～49人」とやり取りをしている者が最も多く、半数近く(48.9%)を占めている。どちらかといえば、船事業参加者のほうが航空機事業参加者より多くの日本人とのつながりを維持している傾向にある。

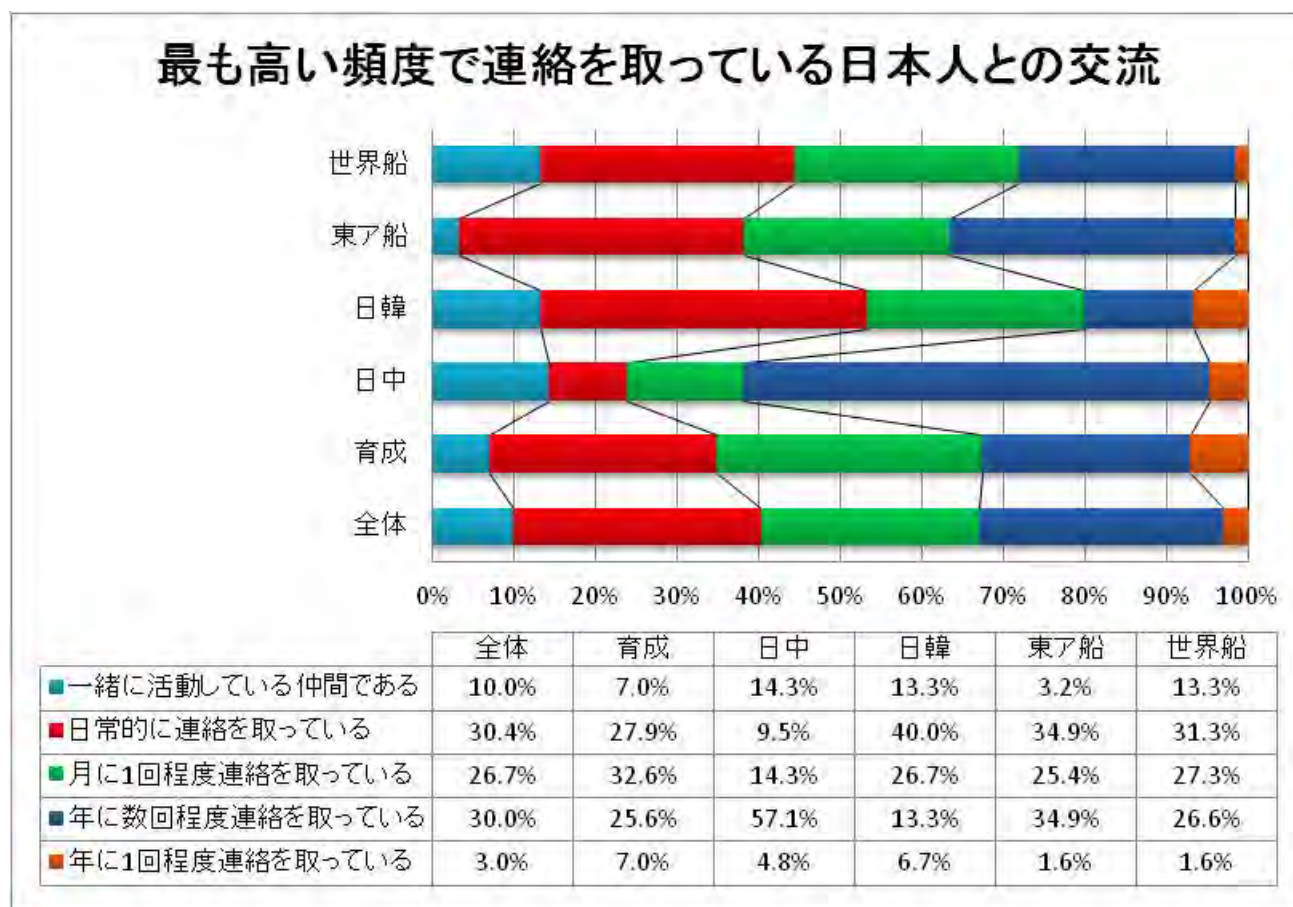
内閣府事業で出会った日本人とのやり取り



	全体	育成	日中	日韓	東ア船	世界船
■100人以上	4.7%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	9.2%
■50～99人	6.5%	0.0%	4.8%	18.8%	4.8%	8.5%
■10～49人	48.9%	43.5%	38.1%	43.8%	60.3%	47.7%
■5～9人	21.4%	26.1%	28.6%	12.5%	22.2%	19.2%
■1～4人	16.3%	21.7%	28.6%	18.8%	12.7%	13.8%
■0人	2.2%	6.5%	0.0%	6.3%	0.0%	1.5%

質問16: 質問15で1人以上の方とやり取りをしていると答えた方(ア～オを選択した方)にお伺いします。最も高い頻度で連絡を取っている方との交流の程度はどのようなものですか。

連絡の頻度は、「日常的」(30.4%)、「年に数回程度」(30.0%)、「月に1回程度」(26.7%)の順に多い。また、「一緒に活動している仲間である」とする者も1割存在する。



第5章 内閣府青年国際交流事業への意見

内閣府国際交流事業に関する意見について自由記述欄を設けたところ、合計123件の意見が寄せられた。意見の内容は多岐に渡るが、事業の継続を要望するものが26件、事業の意義についてのコメント18件、広報の必要性を指摘するものが14件と、特に多く寄せられた。

<一部抜粋掲載>

事業の継続要望	
参加後、人生の大切な価値観などが参加青年との交流を通してさらに明確になってきました。これからの人生で様々な形で日本また、諸外国等で貢献活動をしていきたいと考えております。是位、これからも沢山の世界の架け橋をつくる素晴らしい事業を継続してください。	SWY (H23)
個人的にとっても良い経験をさせていただきました。Youthの活動は国連内でも重視されていますし、参加青年にとっても何かしらのインパクトのある経験となり、その後のキャリア形成に影響を与える経験となるので、今後とも継続して頂ければ幸いです。	INDEX (H15)
現在は活動できなくても内閣府事業における経験は各自の中に蓄積しつつ何かの形で現れていくと思います。予算等厳しい問題はあると思いますが、この事業はぜひとも継続して頂きたいと思っています。	INDEX (H15)